

### 13. 卵巣癌培養細胞株 に対する小柴胡湯 の増殖抑制作用

産科婦人科

朱 坤、深澤一雄、亀森 哲、古野元子、稲葉  
不知之、山崎龍王、香坂信明、太田順子、稲葉  
憲之

目的：漢方製剤による卵巣癌培養細胞株に対す  
る増殖抑制作用を検討した。

対象・方法：4種の漢方製剤（小柴胡湯、人參  
養榮湯、十全大補湯、補中益氣湯）の6種の卵  
巣癌培養細胞株に対する増殖抑制作用を *in*  
*vitro* で検討した。

結果：卵巣癌培養細胞株を用いた今回の実験  
により小柴胡湯には癌細胞に対する増殖抑制作  
用があり、その作用はアポトーシス誘導の結果  
でした。アポトーシス最適誘導濃度は  $1000 \mu$   
 $g/ml$  でした。十全大補湯、人參養榮湯、補中益  
氣湯における濃度  $5000 \mu g/ml$  での卵巣癌培養  
細胞株に対する増殖抑制作用はネクローシスの  
結果でした。

### 14. 成熟 Wistar- Imamichi ラットにお ける過排卵処置後の排卵数に及ぼ す週齢および発情周期の影響

実験動物センター

○今 弘枝、大山 昌秀、藤平 篤志、篠田 元扶

目的：一般的に過排卵誘起が難しいとされている  
成熟ラットにおいて、週齢および発情周期が性腺刺  
激ホルモンを用いた過排卵誘起後の排卵数に及ぼす  
影響を検討した。

方法：正確に4日間の発情周期を呈する12, 18,  
24週齢のWistar-Imamichi ラットを使用した。発情  
周期のステージにより4群（発情前期、発情期、発  
情休止期1、発情休止期2）に分け、10:00にPMSG  
150 IU/kg、55時間後の17:00にhCG 75 IU/kgを投  
与し、その20時間後の13:00に卵管より卵を回収し  
て排卵数を計測した。

結果と考察：全ての週齢において、発情周期の各  
ステージで排卵が誘起され、各ステージ間での排卵  
数に差はほとんどみられなかった。各週齢の平均排  
卵数は、12週齢71.3個、18週齢36.5個、24週齢  
19.9個で、週齢が増加するに従って有意に減少し、  
24週齢では自然排卵時の平均排卵数14.7個との間に  
有意差がなくなった。

結論：発情周期は過排卵誘起後の排卵数に影響を  
与えないが、週齢の増加は排卵数を減少させる事が  
示唆された。